



第35回通常総会開催について

第35回通常総会が10月19日立川グランドホテルにて開催されました。

萩原理事の司会により、議長に八王子支部杉本久雄さんが選出され、議案の審議については、1号議案から4号議案まで原案どおり採択されました。第2号議案には今後の市場移転について理事、役員で構成する「移転推進委員会」（仮称）を設置し検討作業を進めることが提案され承認されております。議事終了後、高野忠経済部長に対し永年勤続表彰が行われました。



ついで、来賓を代表し東京都農業振興事務所山口所長、JA東京中央会大澤様、三多摩造園業協同組合金子理事長より祝辞をいただきました。

第二部の記念講演は東京都建設局公園緑地部の小口健蔵参事が「これからの都市緑化と公園づくり」という今日的課題について映像を使って持論を展開されました。（詳細は下段をご覧ください）

新年懇親会について

新年懇親会を開催致します。多くの皆様のご参加を宜しくお願い致します。

日 程

平成20年2月7日（木）

午後4時より

場 所

府中 大国魂神社（府中市宮町3-1）

電話 042-362-0092

会費 8,000円



年末年始の営業について

年末年始の事務所営業については以下の通りです。

年 末

12月28日（金）

午前中まで営業

年 始

平成20年

1月 4日（金）

午前中まで営業

翌週7日より通常営業

市場移転について

総会記事の中でも触れましたが、市場会場の移転をあと2年で行う必要があります。

ぜひ、皆様のご意見を伺いたいと存じますので、Eメール・FAX等のような形でも構いませんので、ご意見をお寄せ下さい。

どうぞ、宜しくお願い致します。

平成19年度 JA東京植木通常総会・記念講演

第35回通常総会が10月19日立川グランドホテル4階サマールコグラundeにて開催されました。（総会記事は上段を参照下さい）

第二部の記念講演では、東京都建設局公園緑地部の小口健蔵参事が「これからの都市緑化と公園づくり」という今日的課題について映像を使って持論を展開されました。



講演の概要は

1 「減少が続く東京の緑」

都市公園はこの100年をかけ1800ha整備されたが、農地はこの10年で3000haも減ってしまった。東京のみどり施策から考えると非常にショックである。緑地の後退でヒートアイランド現象は進行している。

2 「14年続いた公園予算、冬の時代」

都立公園の整備費用はバブル崩壊後急速に削減され、最盛期の昭和63年に比べ現状は2割の予算となっている。平成6年以降は新規事業が展開できない冬の時代が続いている。

3 「知恵を出して、公園の魅力づくりをすすめる」

ただ、金がないからと言って手をこまねているわけにはいかない。思い出ベンチ事業で寄付により5年間で602基の間伐材を利用したベンチを設置してきた。平成16年からは都立公園サポーター基金を設け広く都民からの寄付を募っている。

4 「反転攻勢の時が来た」

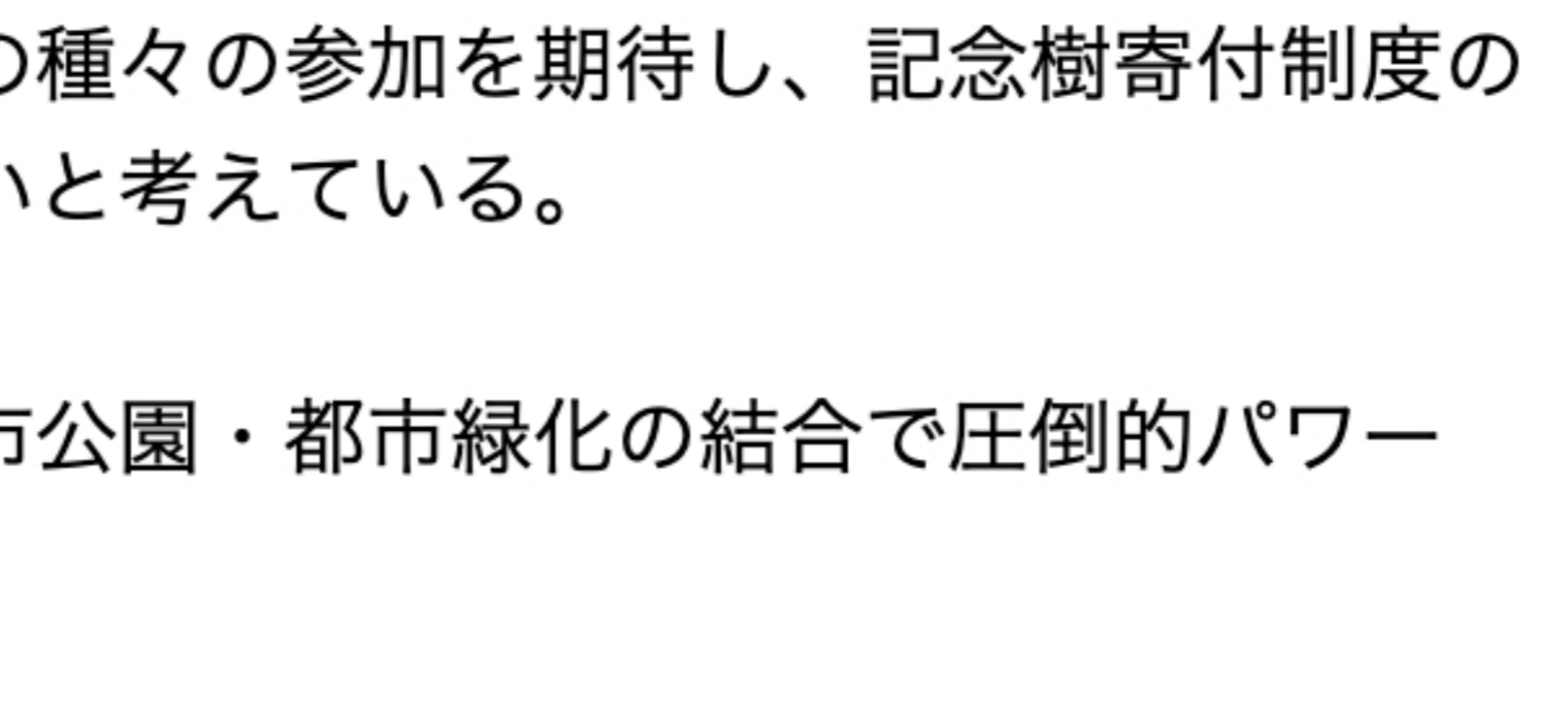
東京都は現在オリンピック招致運動を展開しているが、IOCは1994年オリンピック100周年会議でオリンピックのコンセプトに「スポーツ」、「文化」に「環境」を新たに加えた。以来、環境を前面に出したオリンピックが開催されている。東京都の「10年後の東京」構想が提案されたのも、この一連の動きに一致する。海の森づくり、都心の700haの緑をグリーンロード・ネットワークで結ぶ、校庭等の芝生化で1000haの緑を生み出す、街路樹を100万本に倍増するなどのプロジェクトが動き出す。

5 「緑の東京10年プロジェクト」

この一連のプロジェクトの中で、街路樹の充実が新規街路のほか既存街路樹の間に中小木を入れて100万本に増量する。これらの整備には都民や企業の種々の参加を期待し、記念樹寄付制度のようなものを構築したいと考えている。

6 「農地・農業と都市公園・都市緑化の結合で圧倒的パワーを！」

都内の植木畑、農地は税金の支出を要しない緑地でその存続は非常に重要だ。都市公園と都市農地の協働で一体的緑を守りたいと考えている。また、植木の地産地消の推進は都市緑化と農地保全に貢献する。そのため、植木類の東京ブランド、地域ブランド戦略を皆さんで展開して欲しい。



（参考：小口健蔵氏の義父は巨大白菜「下山千歳白菜」を作出した世田谷烏山の下山義雄翁です）